

平成31年度 【教科シラバス表】

教科名(芸術) 科目名(音楽Ⅰ) (2)単位 (1)学年 履修規定(選択必修)

担当者(松井 深之)

1. 教科書、副教材

教科書	高校生の音楽1(音楽之友社)
副教材	啓隆社「MUSIC NOTE」

2. 科目の達成目標

芸術的な教養の深さは、その人の人生における精神面での豊かさに大きな違いや影響を与えます。音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情・感性を育てるとともに、創造的な表現と鑑賞する能力を伸ばす。

3. 学習の計画

		進行計画	授業概要	考查範囲	時間(予定)
前期	4月	歌唱 ・校歌、翼をください ・ホール・ニュー・ワールド、少年時代 ・春への憧れ(独)	呼吸・発声法に基づき、しっかりと声を出す練習 基礎的なリズム・音程感の習得	第1回	10
	5月	ソルフェージュ ・聴音、視唱、楽典	楽譜の書き方 演奏順序等の読譜能力の育成		
	6月	音楽会の合唱曲(クラスごと) 芸術歌曲(世界の歌) ・'O sole mio(伊) ・Caro mio ben(伊)	クラス合唱による集団作り 原語で歌えるようにする	第2回	10
	7月	・野ばら(独) ・夢路より(米) 他			
	8月	ミュージカル映画 「サウンド・オブ・ミュージック」鑑賞 ミュージカルナンバーの歌唱	ミュージカルを通して、音楽だけでなく、劇による表現力を学ぶ。	第3回	14
9月	合唱曲 音楽史	日本や外国の合唱曲に触れ、ハーモニーの美しさや表現力、感受性を高める			
後期	10月	歌唱 音楽史	主に、西洋音楽史の大きな流れを学ぶ	第4回	14
	11月		各時代の特徴を学び、名曲を鑑賞する。		
	12月	ソルフェージュまとめ 音楽史		第5回	22
	1月	器楽:リコーダー	基礎的な音階がスムーズに吹けるようにする。		
	2月		二重奏のアンサンブルを楽しむ		
3月	器楽:リコーダー				
評価の観点・方法	興味・関心を持って授業に臨んでいるかどうか。(出欠席・取組む姿勢・授業態度) 教材の課題を知覚し、楽想を理解した上で表現の工夫がされているかどうか。 実技テスト等において、その曲想にふさわしい表現ができるかどうか。				
学習への注意・助言	自己表現の一つとして、音楽表現ができる人材の育成を目指す。 音楽は瞬時に消える時間の芸術です。 その瞬間に最高のものを求めるところに、音楽を学ぶ意義や価値があります。 そして芸術を愛好し、深い教養を身につける。				